第７９回市民ふれあいトーク　【ずっと暮らしたい倉敷のまちづくり】

要約版

日時　平成 31 年 4 月 18 日　18：30～20：18
場所　ライフパーク倉敷

≪市長≫

皆さん，こんばんは。今日は貴重な夕方の時間を市民ふれあいトークということで，ライフパーク倉敷にお越しいただきまして大変ありがとうございます。昨年７月２０日に予定しておりましたこの市民ふれあいトーク，それがご存知のように豪雨災害で中止になりまして，以来復旧を優先して，なかなか市民ふれあいトークを開催というところまで力が無かったわけですけれど，３月に真備地区の復興計画もひとまず作らせていただきまして，具体的ないろんな計画とかがまず出来ましたので，４月から再開をしていこうということになりました。昨年の７月からですから９か月ごしの市民ふれあいトークになります。かなり久しぶりなのですが，よろしくお願いしたいと思います。

今日は「ずっと暮らしたい倉敷のまちづくり」ということで昨年の７月と一緒のテーマで，８時ぐらいまでの１時間半ぐらいで考えております。まず私から，昨年の豪雨以来のこと，そして，私とか倉敷市が今大きくどういう方向で頑張っているかということをお話しさせていただいて，今日はいろいろな立場の皆さんがご参加をしていただいていると思いますので，このテーマとか自分のまちをこういうふうにしていくためにはここを頑張っているとか，こういうことができたらいいなと思っているとか，そういうことを是非教えていただきたいと思っています。今市民の皆様がどういうところに力を入れていらっしゃるとか，重要だと思ってらっしゃるとか，そういうことをお伺いして中期的に市の政策を作っていくときのいろんな面での参考にさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

さて，昨年からの動きの中で，もちろん一番大きなものといえば，昨年の７月豪雨の災害でございます。市内で一番大きかった災害はもちろん真備町の浸水でありまして，今も８，０００名近くの被災者の皆さんが自分のおうちではなく，みなし仮設住宅，建設型仮設住宅にお住まいをされまして，そして真備に帰って来ようという思いを持って，本当に頑張っていらっしゃいます。年末に市の方でアンケートを取りましたら，８５パーセントぐらいの方が一刻も早く真備に帰りたいというところに〇をされておられまして，一方で，「帰るにあたって今心配に思っていることは何ですか」というところで，川の治水対策ですと皆さん一番〇をされておりましたので，国や県やそして市でいろんな連携をして，決壊場所の復旧とか，それからまちの安全対策ということをしているところです。（掲示している地図を示しながら）ここに高梁川が大きくありまして，小田川がここにあります。昨年ご存知のように真備地区と，広江のコスモタウンのところで大変大きな土砂災害がありまして，本当に地域の皆さん，また，消防団や消防・警察の皆さんが一生懸命頑張ってくださいまして，また，ボランティアの皆さんがたくさん来てくださいまして今も，復旧に向けて頑張っております。もちろん，玉島や児島，水島地区につきましても，道路が冠水したところなどたくさんあるわけでございまして，本当に昨年の災害は大変大きな災害であったわけですが，とにかく災害に備えたまちづくりをしていかなければいけないと思っております。

一点だけ真備の治水対策で申し上げますと，この小田川の堤防を国と市で今よりも拡幅することにいたしました。皆さんに取りましたアンケートの中で，一番多かったのが先ほど申し上げた治水対策でございました。しかしながら一方で国の堤防の厚さというのは，計画でいろいろ決まっているところがございます。ですので，国だけでは堤防が厚くできないというお話がございまして，一方で帰ってくるにあたっての皆さんの心配な点を何とかしないといけないということで，国と市で考えまして，この小田川の両側に堤防がありまして，今だいたい５メートルぐらいで，そこの上に市の道が走っております。そこにポンプ車とかいろんな緊急車両がもっと通りやすく，皆さんが逃げやすくしてもらうということも市として大変重要な安全対策だと思いました。それゆえ，市がこの川に沿った両側のところを，市道を拡幅するという面で土地を住民の皆さんにお願いして購入させていただく，協力していただくと。その代り，国は高梁川とか小田川でこれからいろいろ土砂を掘削いたします。その土砂を市が買いました土地のところにずっと積んで，つまり市も道路が厚くなる，つまりそれは堤防が厚くなるということで両方とも目的が達せられるという形で今後やっていこうと思っているところでございます。

それから一番大きなものは小田川の合流点付け替え事業ということで，そもそも小田川が高梁川に垂直に流れ込んでいるので，上流から来るものと行き止まりみたいになってしまいまして，流れ込みにくいということがありましたので，完全にここで流れを二つに切りまして，一つの方はこの柳井原の貯水池のところを切りまして，もちろんこちらの安全対策もしっかりしまして，もっと下流でスムーズに高梁川に流れ込むようにする工事をしていただくことになりました。

もともと昨年の秋からこの工事をするということが平成２６年に事業化されて事業を始めていたわけですけれど，いかんせん間に合わなくて災害が起こったということで非常にみんな悔しい思いをしております。本当は１０年ぐらいかかる大事業ですけれどそれを５年でやっていただくことができることになりましたので，早くこれをして安全になって，でも，それまでにも早く皆さん帰って来たいということで言われておりますので，今言いましたようなだんだん部分的に堤防を厚くしていくとか，それから県や市の川なども改修していくとか，そういうことでやっていきたいと思っております。

そして今日の「ずっと暮らしたい倉敷のまちづくり」に関係してくるんですけど，真備の皆さんの意見を聞きまして，それをまとめた復興計画を作りまして，その時に大きく５つ真備の皆さんが目標にされたものがありまして，１つ目が「経験を生かした災害に強いまちづくり」。単純な災害に強いまちづくりではなくて，経験を生かした，つまり今回の災害にあった経験や，もっとこうしたら安全になるということを，「経験を活かした災害に強いまちづくり」。それから「みんなで住み続けられるまちづくり」，「産業の再興による活力あるまちづくり」，そして「地域資源の魅力をのばすまちづくり」，そして５項目目が「支え合いと協働によるまちづくり」というのを皆さんの意見で今まとめています。

今日皆さんからどのようなご意見が出てくるのかなと思っているのですけれど,「ずっと暮らしたい」というのは今住んでいる我々がずっと暮らしたいということ，それから今全国的に東京一極集中ということが言われていますので，是非我々としては東京とか他の大都市からこちらの方に引っ越して来てもらいたいわけです。そういう面で「ずっと暮らしたい」と思ってもらうためにはどういうことが必要なのかなということなどを，みんなで考えていきたいと思っています。

実際に皆さんがそれぞれの地区に住まれてどういうふうに感じていらっしゃるのか，もっとこうであればいいなあと思ってらっしゃることを是非今日はお伺いしたいと思います。今，地域創生と言われておりますけれど，そういう面で感じていることや取り組んでいることなど教えていただければと思っておりますので，よろしくお願いしたいと思います。

≪参加者Ａさん≫

私は玉島陶・服部まちづくり協議会，Ａと申します。ＪＲ新倉敷駅より北へ５キロメートル，穂井田小学校区から参りました。農振農用地域であります。「ずっと暮らしたい玉島陶・服部まちづくり」に取り組んでおります。この協議会を発足して４年になりました。

まず関心事の一としまして,「農村集落発展のために地域の実情に合った土地利用制限の見直しについて」でございます。全国的にも中山間地域の集落は少子高齢化となっており，私たち陶・服部の地域も同様に作業効率の悪い小さな農地が荒れてきております。玉島，新倉敷駅それからインター等々いろいろ利便性はいいわけでありますが，なぜか若者の定着が低く，穂井田小学校児童も今や４３人となって，誠にさみしい限りでございます。荒れてしまう農地ならば地元住民に限らず,移住者にも家が建てられるようにすれば人口増,活性化に繋がり，地区の環境改善にも繋がると考えております。

項目２点目としまして，玉島陶・服部まちづくりに３年間取り組んでまいりました。月例の研修会も４月をもって３１回目となりましたが，今回の課題といたしまして３点挙げさせていただきました。まず１点目としまして，空き家・更地の利活用には限界があると。家屋の老朽化，家屋跡地を宅地にしても道幅が狭く建築許可が下りない。２点目としまして，市民企画提案事業に２年間取り組み，ホームページ，ブログ公開，農業体験，移住ツアー等々の受入を行いまして，穂井田を好きになってもらっても，新規地区住民あるいは移住希望者を迎える土地，つまり宅地が無いということでございます。３点目としまして，市民企画提案事業３年目に取組を計画して進めておりますが，玉島陶・服部地区を持続可能な地域にするために，まちづくり計画を作成し，農地転用許可基準についての柔軟性を訴えていきたいとお願いをしているところでございます。市長のご見解がいただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

≪市長≫

ありがとうございました。陶・服部地区におきましては，日頃から地域のつながりが大変強くて，まちづくりのことでいろんな活動をしていただいておりますことに心から敬意を表する次第でございます。移住のツアーの受入をしていただいている中で，参加者の皆さんからも，とても地域の皆さんがよくしていただいて，また地区のつながりが強くて，本当に住みやすい，今言われたように，住む家が制限の関係で，現状ではなかなか難しいところがあるわけですけど。ただ，住んだら非常に隣近所の皆さんと仲良くできそうだと，皆さん言われていたと今日お伝えしたいと思いまして，本当にそういう面でありがたく思っております。

さて，土地利用関係の，市街化調整区域とかのお話ですよね。まちの中の市街化区域のところと，それから市街化調整区域と言いまして，ここは基本的には市街化にどんどんなっていくよりも，調整ですから，今の形のものを保っていこうという地域で，農業の地域として，非常に力を入れる，そのあたり大きく分かれているわけですけれど，多分市街化

調整区域の中のところで，新しく移住して来るときに，家を建てるのがなかなか難しいとかですね。今，倉敷市議会でも議員さんから質問が出ましたり，また全国的にも課題になってきているんですけど，特に地域の集落におきまして，人口減少社会ということもありまして，農家のおうちでも，息子さん娘さんが外へ出られてしまって，なかなか帰って来ないということで，農地の方も作る人がいなくて，荒れ地とか増えてきて，でも例えば外から来て，穂井田や服部で農業をしたいという方もいらっしゃるのに，なかなか家が建てられないというところが，今の制限の課題なところだと思っています。

今，市と県と国も２年ほど前から，特に農村集落の維持をしていくために，必要な集落の規模，それから町の形成ということについて，以前よりも少し考え方を，規制の方を変えてきてくださっていて，多分今いろんな地区の計画とかを皆さんでどういうふうにしていこうかと検討してくださっているのではないかと思うんですけど,地区の皆さんで当然,農業の地区を保っていくためにも，もうちょっと家を建てたりできるようにして，もっと集落を広げていくべきだと，皆さんでつくっていただければ，そしてそれを当然市とも協議するのですが，それをすれば，市全体の中のその地区の計画として認定をしていきましょうという制度に変わってきている過渡期で，ただまだこれが認められた例はないんですけど，いろんな実態のところもありますので，是非皆さんで協力してやっていければという思いを持っています。ですので，うちの都市計画課とか，農業の継続発展のこともありますので，そういうところと一緒になって是非進めていければという思いを持っておりますので，よろしくお願いしたいと思います。本当に住みやすい地区ですし，農業をしたい方，ちょうどいい住環境に住みたい方が是非引っ越して来てもらいたいなと思っておりますので，市としても頑張っていきたいと思っています。ありがとうございます。

≪参加者Ｂさん≫

防災士のＢと申します。小学校区の自主防災組織連絡会の会長をさせていただいています。防災のことについて日頃勉強させていただいておりまして，勉強すればするほど，町内会長，防災会長，それから消防団の方と話をするほど，一つのことが問題になってくる。それが避難所の開設という事です。仕事のある方は，台風が来ていても会社に行かなければいけない。市の方も台風が接近していると出勤するということで，家族，例えば体の不自由な方や障がいをお持ちの家庭もある。台風が来るけれど，家族を置いていかないといけない。その中で，そういう家族を安心・安全な場所に避難させて，それから職場に行ったり，市の活動ができるような，そういう場所を設けられないものだろうか。いわゆる避難所の早期開設です。

例えば去年の７月６日の土砂災害の懸念があるので，１１時３０分に避難所の開設がありました。自分もその時避難所にすぐ行ったんですが，既に避難所に人が来られていて，聞いたら，家の裏側が既に土砂崩れがあって，避難所の開設を待っていた。安心して職場に行きたい，だけど土砂崩れが起こるかもしれない，台風が来て避難所を開設する前に避難したいという方がおられると思うんです。そういった方々のために，中学校区で一つくらい避難所を開けて，全部開けると大変なんで，例えばこの水島だったら１か所，児島でも１か所，倉敷とか，茶屋町，玉島，船穂，真備で１か所というふうに早期避難所を開設していくことができないかなと，そういう思いで署名活動をして，現在まで１７２人の方が賛同してくださいました。（市長に署名を渡す）拝見してください。よろしくお願いしま

す。

≪市長≫

今Ｂさんの方から，避難所の開設のことについてご質問をいただきました。避難所はいろいろな種類に分かれていまして，土砂災害に対応できる避難所でありますとか，浸水被害に，例えば今回の災害で言えば，真備町では洪水の時の避難所は，岡田小学校と薗小学校と二万小学校しかなかったので，その３か所に皆さんが逃げて来られるということになったわけです。それでちょっと観点が違うんですけど，今回，真備だったら，２万２千人の町内の中で高台の避難所が３か所しかなくて，なかなか遠いところまで行かなくてはいけなかったということがありまして，今回真備地区の復興計画の中で，小学校は６校あるんですけど，小学校区に一つは，いざ水が急激に来た時に，逃げられる場所，つまり緊急的に逃げられる場所を学区に一つは設けてもらいたいということがありまして，小学校の１階は浸水区域になっているけれど，例えば３階の教室ですとか，廊下は大丈夫だとかいうところであれば，そこを緊急時の避難所ということで指定をするということなどを今進めているところです。多分今Ｂさんが言われたのは，広域的な，早くから開ける。

≪参加者Ｂさん≫

そうですね，働く人のための。国の基準で発表していくんだと思うんです，今。防災危機管理室の人もそう言われてて，国の基準だと，人の命に関わる。倉敷のタイムライン防災，倉敷独自で設けて，とにかく安心できる場所を１か所つくっていくことで，安心して職場に行ける。また，災害がきた時に安心できる場所が１か所欲しいんです。

≪市長≫

なるほどですね。今言われたように全国的に避難の基準が決まっていまして，例えば洪水だったら，洪水予報が国土交通省から来たり，気象庁の特別豪雨が来たら避難勧告を出すとかあるんですけど，それより前にということですね。例えば地震とかの場合，どうするんですか。

≪参加者Ｂさん≫

今言っているのは台風が来た時で，朝８時に職場に行く。その前に，例えば前の日の夜に開いていておけば，体の不自由な人，障がいのある人は，自分で避難せえよ，と会社から電話しても避難できないし，前の日に早期避難所が開設して避難しておけば，次の日安心して職場に行けて，実際に避難勧告が出ても，うちの家族は避難所に行っているから安心だと。目的が何かと言えば，市の職員さんも災害の前集まった時に家族を置いて出ていく，置いていくのが保育園だったり学校へ行く時間はいいけど，それ以外の時は置いていって家に土砂が来るんじゃないかと心配な家族のための避難所ということで，タイムライン防災，倉敷独自の避難所を広域で１か所是非持ってもらいたい。

≪市長≫

今の時点でそういうタイプの避難所はないんですけど，例えば地区で言えば届出避難所というのがあって，遠い小学校ではなく，もっと近いところで，地域で開設しましょうと

いうことであれば，タイミングとしては早くから開設できるようになったりしますというのが一つありまして，結構今数も増えてきていますので，そういうものを考える。もっと広域な避難所で大規模な災害が来そうな時に，Ｂさんが言われたように，かなり前でも早目に開けるというのも必要だと思いますので，まだそこまで考えが進んでないんですけど，今日のお話をいただいて，いろんな検討をしていきたいと思います。ありがとうございます。

≪参加者Ｃさん≫

私は２０１２年に岡山に移住してきまして，岡山盛り上げよう会というボランティア団体に所属しているＣと言います。現在，移住定住の支援と地域活性化という目標で，ボランティアで活動しているんですが，今日３つほどお話していきたいと思います。

まず一つ目が移住定住，観光に通じることなんですが，移住定住のツアーの相談会をやっているのが，だんだん人が減ってきている傾向にあるんです。それは移住を最初から考えている人たちに対するＰＲばっかりに注意をしていると。今はトレンドも変わってきているし，移住を考えていない人たちにも当然ＰＲしていかなければいけないので，目的をつくること。例えば，倉敷に移住するという目的をつくるという観点で，今考えていない人たちにＰＲする方法を考えたらいいんじゃないかと思っています。一つの例として婚活と移住を一緒にやって，婚活に来るんだけど，イベントに行った時に移住に関連したお話をするとか，そういうことをすれば，普段考えていない人にＰＲができるんじゃないかと。さらに，そこに成功体験の中でアドバイスをもらったら，よい時の記憶が残るので，そういう方法が一つあるんじゃないかと思っています。

それから，岡山に来てからよく思うのは，岡山の方は外に向かって自分の地域を自慢しない。どこか美味しいところがありますかと聞いてもわかんないと言ってしまうんですが，外から来た人間からすると，楽しいところも美味しいところもいっぱいある。地域活性化するため，移住・観光のＰＲをするためには，地元の方々の意識というところもありますので，人に自慢するという観点で，地域の方に考えていただく機会があってもいいんじゃないかなと思うのが一つあります。

最後に，地域が生き残って活性化していくために，私なりに今までの経験で感じたこととすれば，やっぱりグランドデザインというのが非常に重要になるんじゃないかと。グランドデザインとはどんなことかというと，１００年２００年経っても変わらないものということなんですけど，例えばいろんなイベント，建物をつくったり，地域をつくったりするんですが，一過性のものが多いと思うんです。どうして一過性なのかと言うと，グランドデザインがないんで，例えば，観光地とかをつくる時に，残すものが住民の中でもはっきりしてないので，残したいものがつぶされ，余計なものがつくられるということが起きてしまう。それがビルとかだったら，一回建てると６０年間景色が変わらなくなってしまうということがありますので，１００年２００年スパンで，倉敷や岡山としてはこういうものを残した方がいいということを検討して決める場が必要なんじゃないかと思いますので，いかがでしょうか。

≪市長≫

ありがとうございました。最初に移住定住のツアーのことをお話しいただきまして，今

倉敷市では年間に１５～１６回くらい県と一緒にしているのもあり，独自でやっているのもあって，東京や名古屋とか大阪とか大都市圏でやってまして，最初は倉敷市だけで出してたんですけど，今は備中地域の高梁川流域で連携都市を組んでいますので，７市３町で一緒に出すことも結構多いです。今言われたように，移住を目的にする人は移住したいと思って来るんですけど，それだけじゃなくもっと他の観点で，観光とか婚活とか農業とかいろんな面でのということが重要じゃないかということですね。それは確かにそうだと思います。市でも「倉敷で暮らす」という移住のホームページを上げていろんな情報を入れているんですけど，他のサイトともリンクしたりとか，例えば農業だったら移住のところにもリンクを貼るとか，そういうことを検討した方がいいですね。

それから自慢しないというのは，その通りのところもあると思うので，もっと自慢しないといけないと思います。本当に大変素晴らしい地域ばっかりですし，特に倉敷市内各地区で特色もあるから，今グランドデザインで残していくべきものというのは，倉敷市内でいうと，一つにはいろんな美観地区の伝統的な建造物群保存地区だったり，児島にも玉島にもある町並み保存地区だったり，各地区の文化財だったり，農業地区は倉敷にとって非常に重要な財産ですので，それから古代の吉備の遺跡とか，楯築遺跡とか大きいものもありますので，そういうものなどを中心として，開発ができる部分と残していく部分と，市としてはまちづくり計画・都市計画をつくってやっているので，そういうのを皆さんにも分かってもらうように頑張りたいと思います。（Ｃさん：グランドデザインに関しては当然計画があると思うんですけど，１００年２００年と長期的なものというものを検討する場というのは。）だいたい２０年くらいが多いんですけど，伝統的な部分はもっと長いので，分かりました。頑張ります。

≪参加者Ｄさん≫

本荘地区から参りましたＤといいます。今，そこの倉敷のマップを見て本荘地区がどこかなと思っている方もいらっしゃるのではないかと思います。本荘は児島塩生のあたり，児島の中でも一番西ということで，コンビナートと接している地区でございます。地区の中にはコンビナートでない地区もございますけど，私の住んでいる所はコンビナートと接している。本荘全体で考えましたら風光明媚なところでもあるし，近代産業と言いましょうか，世界を引っ張っていくようなコンビナートと接する地区でございます。

先ほどからのいろんなお話の中で，移住定住ということで，２年ほど前から移住定住推進室や市民活動推進課，備中県民局といろんな活動をやってまいりました。学生さんを呼んでいろいろ移住定住をどうやったらよいかという活動もやってまいりましたが，なかなかそこまではたどりつけないというのが実態です。

少子高齢化で，０歳から１４歳までがだいたい９．９％ぐらい，６５歳以上が３５％くらいの人口比率でございますので，これから我々どうやっていこうかと，自治会連合会，社協とか，活性化推進協議会とかいろんなことをやりながら考えておるんですけど，学生さんとやってる中で一番発言が多かったのが，情報が公開されていない，発信されていないというのをずいぶん言われました。我々も地区の中でまず情報発信から始めようということで，各地区の新聞を作りながら，こんな活動をしてるんだよと言いながら，地域を盛り上げるというか意識の高揚を図ってきているような現状でございます。２年いろいろ活動をしてみまして，だんだん地域の中も，気持ちもそのようになってきたんじゃないかと

思っています。
　昨年真備が災害を受けまして，我々本荘の中でも災害がありましたけれども，ボランティアとして真備の方へ，７月の１９日から１０月２１日の真備のボランティアセンターが終わるまで，数名ずつ行かせていただきました。それがありまして，今年になりまして，お雛様をやろうじゃないかという発案がありまして，お雛様作り，まあみんなで手作りのお雛祭りということを考えて，皆さんに呼びかけたんですけど，３１名くらいの人がやろうと。で，これはですね，先ほど話が出ましたように定住人口とか交流人口とかいうことで，マーケットもいろいろやってきましたけど，最近よく言われる関係人口といいましょうか，何か関係したいという人もずいぶんいるんだなというように感じております。
　我々は今，これからまた次の令和元年に向けて新しく発信する中で，お雛様作り，１０年，２０年もっと先まで使える本荘のお雛祭りということをして多くの人に来てもらうというのが一つと，地域を活性化するのが一つと，その両方を兼ねた活動を続けていこうというように考えています。
　そこで，今私たちの地域で少子高齢化という中で，本荘幼稚園がこの３月をもって廃園になりまして，幼稚園として味野の方へ行くことになりました。本荘幼稚園の場所が今のところどういうふうに使われるとかを聞いておきませんと，その辺の用途がどうなのか，先ほどちょっと防災の話が出ましたけど，自主防災が各地域でいろんな手続きをして届出避難所を設けておるんですけど，全体の避難場所が本荘小学校になっています。あそこは津波はいいけど土砂崩れには不適というようなことだと思います。それも含めれば，幼稚園の場所を改めて避難場所として考えていただけないかというのが一つ，それと我々が地域の中で活性化する活動する中であの場所を使いたいというふうに思っておりますので，是非これは我々自治会，団体に運用をお任せいただいて，よりよい本荘とするためにあの場所を提供，お貸しいただけないかという思いですのでよろしくお願いします。

≪市長≫
　ありがとうございました。本荘幼稚園のところについては，今お話しいただきましたように，幼稚園の機能としては味野の方になったんですが，場所のことについては，まだ方向性は決まってないとは思っております。
　基本的には建物の耐用年数とかを見て，用途の今後のことを考えるということになるんだと思いますけど，地域の皆さんと，今言われたような避難場所のこともあるので，まだちょっと今後の方向性については，相談を是非お願いしたいと思います。

≪参加者Ｄさん≫
　常時借りられるというのは先にしても，まず，来年にかけて何かイベントするときに貸していただけるようお願いしたいと思います。ご検討をよろしくお願いしたいと思います。

≪市長≫
　わかりました。それと，本荘小学校は，森和俊先生がご出身で，ノーベル賞の大候補者ですから，ノーベル賞が出れば一挙に世界規模になりますから，毎年待っておりますから頑張りましょう。

≪参加者Ｅさん≫

失礼いたします。私は児島の下津井シービレッジプロジェクトという団体を立ち上げております，事務局をしているＥと申します。倉敷市さんの鷲羽山下津井まちづくり推進協議会の中の部会のワーキンググループとして活動しておりまして，その中の団体の事務局をさせていただいております。

私たちの団体ですけれど，平成３０年度に国の農村漁村振興交付金の方を取得いたしまして，本年度，ソフト予算ということで地域の資源を調査したり，あとは観光プランを作ったり，特産品を作ったり，食文化の啓発活動とか，宿泊施設への支援ということで，交付金を使ってさせていただいております。もう１年させていただくことになっています。

私たちの思いとしては，地域を元気にしたいということです。一つはインバウンド，観光資源を活かして地域を元気にして，その結果移住者が増えていく，そこで商売したい若い人が来てくれるだろう，その後空き家対策にもつながるだろうということで，私の気持ちとしてはそのように活動しております。

立場的に言うと，まちおこしもさせていただいているのと，会社，工務店の社長をさせていただいているのと，あとは古民家の再生協会というところで空き家対策の活動もさせていただいております。

その中で３点，お願いごとというか質問というかですね。

≪市長≫

是非活動の紹介していただけたら。

≪参加者Ｅさん≫

一つなんですけど，私たちがまちおこしをしていて，今年は日本遺産の北前船の寄港地ということで，下津井の回船問屋の隣で下津井漁協さんの空き家を活用して事務局の方を４月１日に開設させていただきました。このたびはありがとうございました。これも倉敷市のまちづくり推進課の支援を受けて開設させていただきました。

観光という視点で言いますと，なかなか下津井の町並みも活性化せず，せっかくある鷲羽山，あと町並みですね，そのあたりの活用がなかなかできていないなあという感じがまだまだしております。その中で今見たのが，皆さんが今日持たれているこの（日本遺産）リーフレットの裏面を見ていただくと，２番は回船問屋なんですが，１番のこの建物，これが下津井町並み保存地区の代表的な写真として掲載されています。こちらの建物の方が，今取り壊しになるとか駐車場になるとかということで，ここのところをうまいこと活用できやしないかというのを思っております。これは地域の大切な財産になるので，そういう活動をしているということで，ご紹介ということです。

もう一つですが，空き家対策ということで，各地域で空き家バンクとかを作って空き家を抑制するという活動をされていると思います。空き家が出てきての対策をするのではなくて，出る前の予防ですね，そのあたり，私は空き家の相談をよく受ける立場でありまして，空き家になる前にご相談を受けて，相続とかいろんな専門的な知識が要ると思います。そういう相談窓口を設置していただけないかと考えております。

あと，移住のコンシェルジュですね，移住者が来たときにけっこう不安があったりして，私も移住の相談を受けるんですけど，まちおこしの私たちの団体を紹介していただくとか，

そういうことで安心して暮らしていけるのかなというふうに思っております。
　最後に，一点なんですけど，是非下津井シービレッジプロジェクトの事務局の現場に足を運んでいただきたいなということが，私たち役員とか団体の希望でございますので，是非一度お越しくださいませ。以上です。

≪市長≫
　ありがとうございました。Ｅさん，思い出しました。この間，シービレッジのオープンの時，記念のお菓子をもらったのを思い出しました。ありがとうございました。
　今言っていただいたように，児島の下津井地区は，大変古き良き町並みが残る町並み保存地区でもあります。玉島にも町並み保存地区はあります。その中で，これは玉島もそうですけど，昨年５月に文化庁の方から日本遺産の認定になりましたこの下津井の港，それから玉島の港が北前船の寄港地として文化庁から認定になりまして，大変重要な文化財も残っており，そして全国の北前船の皆さんとも連携していろいろなこの観光のルートなども作っていきたいという気持ちも持っているところです。
　北前船の寄港地は全国で４０ぐらいの市町が一緒に認定になったんですけど，その中でもこの下津井，また玉島はいろいろな昔のものがよく残っているということと，それからまた玉島についても，当時の大変大きな寄港地だったということで，そこに来ていろんな商人の皆さんが物のやり取りをするときに同時にお茶をたてながらおもてなしをされたということで，お茶の文化も残っているということなども全国的に発信をしていまして，日本遺産としての北前船の寄港地とそれから一輪の綿花から始まる倉敷物語というのと，それからもう一つは真備の箭田の大塚古墳とそれから楯築遺跡，古代の遺跡の非常に大きな日本遺産というのがありますので，そのあたりをしっかりＰＲして頑張っていきたいと思っています。昨年は直後に災害がありましてなかなかＰＲが難しかったんですけど，瀬戸大橋も開通をしまして３０年ちょうど経ったということもあります。
　それから，今年は瀬戸内国際芸術祭もありますので，そのときに…，今日は松島の関係の方とかは来ておられますか？じゃあせっかくですから，松島のことなども言ってもらっていいですか。

≪参加者Ｆさん≫
　児島で設計事務所をしているＦと申します。また，仲間たちと一緒に芸術家の集まりとしてクリエイターラウンジというのを２０１０年からやっております。
　先に問題意識を申しますと，最近こういう言葉を私よく言うんですけど，「住んでいるけど暮らしていない」というのが今の日本全体のまちの病というか状態を表しているのかなあと思っておりまして，住んでいるんだけどまちに暮らしがないというふうに思っています。経済の循環ですとか循環型社会と言われていますけども，これを別の言葉で表現したものですけど，そういったものを問題意識にしながらいろんなことをしています。
　そういう意味で，地方が注目されるポイントとして，東京よりも，中央よりも先だっていろんな課題を地方は背負っていって，背負っている倉敷，各地域でありますけど，倉敷の特におじいちゃん・おばあちゃんが幸せそうに暮らしている暮らしを誇りにしていいんじゃないかなあというふうに思っています。先ほど，倉敷の人はあんまり自慢しないと言いましたけども，普通に暮らしていて笑っているだけで自慢になって，それをすればいい

のかなと思っています。
　もう一つ，移住者のことですけど，移住者の人数を何人来たとかと言うのはちょっとかっこ悪いなぁと思っています。日本全体がしぼんでいく，経済がしぼんでいく人口の中で，どっかからどっかに人が移ったというのを誇りにすることはかっこ悪いと思っているので，それをしたくないなと思っています。そうではなくて，それぞれの持っている良さを誇りにすれば充分かなと思っています。
　そういった問題意識の中で，皆さんいろんな技術とか科学とかお金とかいろんなことを頑張ってるんだけど進んでいけない。そういった時に何が突破できる力かなあというときに，私たちは美しいとか楽しいとか，また喜びとかそういった感性の部分を前に出していくのが大事かなあと思っていまして，今日も来ていますけど仲間と一緒にまちづくり推進課のサポートも受けながら私も活動をやっています。よろしくお願いします。

≪市長≫
　ありがとうございました。移住の人数を自慢するつもりはないんですけれど，国もこのまま東京に人口が集中したら，もちろん首都の機能は必要なんですけど，過度に集中するとやっぱりちょっと難しいというところから，我々としては，東京ばかりに目を向けるのではなくて，地域のいいところに是非目を向けてもらいたいという思い，若しくは，是非Ｕターンとか Ｉ ターンとか Ｊ ターンしてもらいたいっていう思いで進めているので，もちろん多ければいいというわけではなくて，やはり，皆さんが住みやすく，自分らしく，また自分の夢を実現できるところとして，倉敷がそのまちになってもらえたらいいなということを思っています。
　一方で，地域にとっては農業，保っていきたいということで，そのためにはもちろん自分の子どもさんやお孫さんが農業を継いでくれればありがたいんですけど，そういう考え方の人ばっかりではなかったりするので，でも一方で農業をしたいという方，そういうときに是非選んでもらって，来てもらって，そういうところがうまくマッチングできればいいなあと思っています。
　芸術の皆さんにとっては，この下津井，児島の地，非常に素晴らしいところですので，市も松島の分校のところを非常に応援しておりますので，皆さんでいろんな観点で頑張ってもらいたいと思っています。
　瀬戸内国際芸術祭でたくさん人が来られて，玉野から児島，倉敷の方にもバスを出すつもりですので，そういうときにもいろんな人が，たまたま見て，来てもらったらすごくよかったということで，いろんな発信ができると思いますのでよろしくお願いします。

≪参加者 G さん≫
　エンジョイスポーツの会から来ましたＧです。５０年ほど前に初めて行って来いと行かされて，そのまま移住しました。５０年ほどここにおります。今，年寄りを１３０人ぐらいエンジョイスポーツでお預かりしとるんですが，ぼちぼちつぶれるんか思うたら増えよるんです，人数が。ここのライフパークの大ホールが狭いぐらいになるんです。（市長：具体的には何が今人気があるんですか。）一番はやっぱり小運動ですかね。先生呼んで来て。軽い運動です。それと，あちこち行って歩く。玉島へ行って歩いたり下津井まで歩いたり吉備路の方まで行って歩くんですが，なるべくなら倉敷から出たくないと思っております。

いいところたくさんあるんですが，一番困るのは，バスがないんです。ここへ来るのに児島の方から来られる方もおるんですが，倉敷まで出て，またバスに乗り換えてこっちに来られるんです。横に走るバスがないんです。ひとつ市長，考えてもらえませんか。それと，できれば早めに倉敷駅を２階にしてもらって（市長：頑張っています。）ここの電車が岡山まですっと行けるようにしてもらいたいです。

≪市長≫

ありがとうございます。今スポーツのことで大変大事なことを言っていただきました。最初に申し上げました健康長寿のまちづくりということで，皆さんが健康で，元気にいきいき暮らして，そして長生きしていただくことが大事だと思っておりまして，その面では市も，公民館の講座の時でも，少し健康の方のようなものも取り入れてもらうようにというのをなるべく力を入れているところであります。

それと，今玉島を歩いたりいろんなところを，と言っていただいたんですけど，すごく大事なところでして，地域の中で住民の皆さんの健康のことをサポートしてくださっている愛育委員さんが，我がまちを歩くてくてくマップ，それをほとんど全学区作っていただいてますので，それを活用してスポーツというか散歩していただいて，今愛育委員さんと相談しようと思っているんですけど，その歩くマップが実際に災害の時に，避難場所にどうやったら行けるかとか，ここら辺は雨が降ったら気をつけないといけないとか，そういうマップなんかも見ながら，是非歩いてもらえたらいいなぁと思っています。

というのが，さっきから何回も真備のことを出して恐縮なんですけど，今回岡田小学校と薗小学校と二万小学校で，他の小学校区の方たちがなかなか逃げにくかったのが，要は普段からあまりなじみのない小学校だから，行っていないから逃げにくかったわけです。やっぱり１回は，できれば何回か行ってみておかないと，そこに行くのにどこの道がいいのかとか，行っても知らない人ばっかりだったらどうかしらということで逃げないということがあったと聞いていますので，日頃から，地域を歩いたり地域のことをよく知っていただくという面でもスポーツ，歩くということは大事だと思っております。

それでバスのことなんですけど，倉敷駅から縦の線のバスは何系統もあるんですけど，あと水島臨海鉄道もあるんですけれど，横の線が…。例えば今水島で言えば水島中央病院さんが，コミュニティタクシーを何系統かしてくださったりしているんですけれど，なかなか利用者の方がまだまだ少なかったりということで，是非市としてもバスを走ってもらいたいということで，バス事業者と都度にいろいろ交渉していて，これからも交渉していきたいと思っているんですけれど，皆さんが乗っていただかないとなかなかバスが継続できないと言われますので，市もコミュニティタクシーへの助成や，もちろんバス事業者に対しても助成を出していますけれど，そういうものを続ける中で，皆さんにもっと乗っていただけるようにＰＲや，よくわかりやすいような周知方法もしていきたいと思います。どうもありがとうございます。頑張ります。

≪参加者Ｈさん≫

今言った陶に埼玉から移住してきましたＨと申します。こっちに来る前には東北の震災で停電とかを経験してきたんですけれど，やっぱり移住して来た方たちが思うのには不安は捨てがたいと思うんですけど，どうしても孤立したり孤独っていうのがあると思うんで

すよね。私は１年半住んでいますけど，手織りの方をちょっとやっているんです，ギャラリーを。そこでけっこうたまに（人が）訪ねて来てお茶を飲みながらお話はさせていただいています。今までのところハードの話が多かったんですけれど，星がきれいなこととか，これから星は売り物になると思うんですね，子どもたちに。子育てもいいんですけれど，私たちは孫が後ろについておりますから，そういう時に夏休みに気楽に遊びに来れる場所みたいな，おじいちゃんおばあちゃんのところに体験できるような場所とか，そういう場所がちょっとあればいいなって思います。

私は誰が移住してきたかとか何も知らずに，近所の人の声かけで玉島みなと朝市には参加させていただいて，市長さん覚えてますかね，金柑の甘露煮を口に入れたの。（市長：はい，覚えてます。あの清心町の商店街の。）私です。そういうものを自慢するというわけではないんですけど，どんなにいいところかって体験してますから，体験を聞きに来ていただければと思うんですよね。こういうチラシで言うんではなくて，観光バス（移住ツアー）で来る方たちは半分観光で来られているって噂も聞いてますので，安く観光にという意味で，体験談を聞くっていうことは非常に大切ではないかなと思います。陶はすごく人間が素晴らしいです。Ａさんのお世話で住んでおりますので。是非とも皆さんにこれは伝えたいです。空気のきれいさと。ちょっと男性ばっかりだったのでソフトな面も。

≪市長≫

ありがとうございます。本当今何名かクリエイターの方たちも言っていただきましたけど，いろんな体験談，自分がそこに住んでみての実際のいいところとか人情味とかそういう話をして，観光で来る方もいるかもしれませんが，でも倉敷駅からの移住ツアーだったらそこまでは自分で来られて，あとはずっと回るのは市の方で皆さんのところに行ったりっていうのも，それもひとつ有効な方法かとも思いますので，今言っていただいたように話を聞くというのが重要ですね。実際にこちらに来られた方の。もっとそういう機会も取り入れて，その時には協力の方もよろしくお願いします。

≪参加者Ｉさん≫

西中新田からまいりましたＩと申します。出身は千葉県で，私も東日本大震災を経験しています。倉敷市民になって５年目なんですが，皆さんここにお集まりの方々は，防災意識やまちづくりに関心がとても高い方だと思いますので，市長だけでなく皆様にも一緒に考えていただきたい問題として質問させていただきます。

今日も台湾で大きな地震がありました。福島第一原発も地震があって事故になっているわけですけれど，原発の放射能被害，福島県だけでなく当然その周辺にも及んでいます。関東だったり東北だったり，風で運ばれて放射能汚染が進んでいるわけですが，現在も事故の収束がはかれないままでいます。

そんな中，岡山県は１，０００人以上の福島原発事故による避難者が移住されています。倉敷市は岡山市に次いで２番目に移住者が多いんです。私たち，原発経験者は再稼働はありえないと思っているんですが，市長はどう思われますか。

≪市長≫

今日ちょっとそのテーマではないので…。

≪参加者Ｉさん≫

では再稼働はともかくとして，島根原発と岡山県で避難広域…倉敷市も受入れするようになっていますよね。（市長：なっています。岡山県と鳥取県が組んでいますので。）この場合，岡山県にも放射能が降ってくる可能性もあると思うんですが，何か避難計画とかあるんでしょうか。風向きによって，岡山，倉敷がもしそうなった場合に，倉敷も防災計画をこれからもし将来何かあった時のために考えてもらえると嬉しいです。偏西風に乗って岡山も汚染される可能性はあると思うので，将来的にいつ地震があるかわからない日本ですので，是非皆さんもその辺関心を持って考えていただけたらと思います。

≪市長≫

ちょっと今すぐ詳しくは言えないんですが，いわゆる原発区域があって，我々の区域は通常のところでは距離が原発からありますので，皆さんが逃げて来られる区域となっていますという状況です。

≪参加者Ｊさん≫

船穂町で新規就農しているＪと言います。マスカット・オブ・アレキサンドリアを新規移住して，２０１０年から２年研修させてもらって２０１２年からで今年８作目で，農林水産課さんにお世話になってマスカットの補助金をいただいて，たくさん植えさせてもらいました。ありがとうございます。（市長：アレキは厳然たる地位がありますから。）先人が築き上げてくれたもので，それに甘えてやっているんですが。いかんせん耕作放棄地というか荒地がどんどん増えているので，畑はいっぱい借りられる状態ではあるんです。それで僕はずっと植え続けたのですが，作業労力が農作物で一番かかる品種と言われているので，もう手一杯な状態で，これから新しくまた来ていただける方が来たとしても，こういう現状が続くのであればちょっと難しいのかなと思うところがあります。

先日，ふなおワイナリーさんが赤ワイン棟を建てられました。香川大学さんと岡山理科大学さんと今提携して，新しい品種を作られているというのを聞いて，その品種ができあがった時に，もしふなおワイナリーさんで醸造されるというのであれば，単体で保有して作ってしまうより，荒れた園地が出てるので，新規就農者の人が来たらそれを植えられる環境にしてあげたいと思うので，（市長：赤ワイン用のぶどう品種を？）はい，それでまた新たなワインの産地になればいいなと思って。何が言いたいかと言うと，ワイン特区を倉敷市で取っていただけないかと思いまして。現状もう荒れている農地が増えてきているので，ワイン用の品種であれば，いくらか作業労力も少ないし年配の方でも作れるし，できればよろしくお願いします。

≪市長≫

特区になると少し醸造のリットルが緩和できるんですよね。ただ醸造の機械が要るので，Ｊさんは自分でその機械を持つのですか。

≪参加者Ｊさん≫

私は持とうと思っています。通常であれば８，０００本造らなければならないのが，２，

６００本ですむ。アレキを使ったワインが造れる状態なので，他の人が移住して造ろうと思っても造れる範囲です。

≪市長≫
船穂ワイナリーはアレキによる１００％のワインを造っているわけですが，ライバルになるんですか。

≪参加者Ｊさん≫
ライバルというよりは，都会に発信できたり新しい産物として共存したい。１社でやるよりは産地として倉敷市として何かをやりたいということです。

≪市長≫
特区の制度があるというのは聞いたことがあります。また調べてみたいと思います。

≪参加者Ｋさん≫
移住のプロジェクトでこちらに引っ越してまいりましたＫといいます。今は仕事など探して，こちらに定住できればと思っています。（市長：ちなみにどのあたりからですか。）引っ越してきたのは沖縄の那覇からでして，出身は神奈川県です。
今ちょうど二十歳になったところで，腰を落ち着けて生活したいなということで沖縄から出てきて，倉敷へ来たんですが，今後数十年後におきまして，日本という国内では人口増加に関しては，東京のみで増えて，他の地域では減っていくのではないかと予測されている世の中です。その中で人口流出というのはしょうがないと思うんですが，倉敷市として僕のような２０代の若者が東京に出ていくというのは，やはり東京という都会が魅力的だからだと思うんです。その点につきまして，今後若者をこのまま倉敷や岡山県に定住させるにはどのようにすればいいか，お聞かせいただければと思います。

≪市長≫
若い人たちが倉敷市に来て，そのまま定住してくれるとか，若しくは大学とか高校とか仕事で来てくれるとか。元々住まれている方が，東京の仕事とか学校とかに行ってしまわずにここに定住してくれるとかということがあればいいなと思っているんですけど。そういう面で思っているのが一つにはこの倉敷市には，重厚長大型産業であれば水島コンビナートがあるんですけど，そうではなくて古くから培われてきた伝統的な産業，もちろん農業とか，漁業もそうですし，イ草の産地である茶屋町とか庄とか，イ草の製品の産地である所とか，地元の，この分野では日本一という，例えばマスキングテープのカモ井加工紙さんであったり，この水島地区で言えばブルーシートで日本一の萩原工業さんもあるし，玉島にあるプロペラでは世界の中でも何割というシェアのナカシマプロペラさんもあるし，本当に倉敷市にはたくさんあるので，そういうところをよく知ってもらって，就職の検討をしてもらいたいと思っています。
ですので，学生の皆さんが就職を検討する時に，東京とかいろんなところに行かれるのもいいですが，地元の意欲ある企業の皆さんが集まって倉敷アイビースクエアとか市民会館の会議室で懇談会とかＰＲ，就職面接会みたいなのを結構頻繁にやり始めているので，

そういう時に地元の個性ある力のある企業に，皆さんなかなか自慢しないというのもありますが，もっともっと知ってもらって。全然知らないところに行くよりも，ここで頑張りたいと思ってもらえるような。そういう企業の皆さんはインターンシップとか，市役所でも年間何十人も来てもらっているんですけど，まず地域のいいところを見てもらって，愛着を持ってもらって，ということも最近頑張っています。

それから，移住定住の時に，これ倉敷市の地図しかないんですが，倉敷市は岡山県全体の中の西の南の辺ですが，この高梁川の流域で，７市３町で連携都市というのを組んでいて，倉敷市が一番人口が多いんですけど，我々の恵みというのは上流からの川の流れによって代々培われてきているので，上流にある新見さんとか高梁さんとか総社とか矢掛とか井原とか，そういうところも一緒になっていろんな例えば産物をＰＲしたり観光をＰＲしたりしてるんです。一緒になってやっていくことによって単体だけじゃなくて地域全体として皆さんに魅力を分かってもらうとか，そういうことに最近は力を入れています。

それから日本有数の病院もあるということで，当然医療関係のスタッフの方もたくさんいるということで，市内に多くの医療関係の専門学校とか，病院が有りますので，そういうところへの就職とかについても是非後押しをしたいということに最近では力を入れています。是非，就職のいろんな相談をやっておりますので。頑張ってもらいたいです。

≪参加者Ｌさん≫

渦中にある真備町に住んでおります長野県から来たＬです。去年の９月に，(豪雨災害で)忙しい中，引っ越して来ました。私は県外から来たのですが，どういう経緯だったのかお話させていただきます。ブドウ生産者の方からお話がありましたが，私もブドウ生産をやりたいということで来たのですが，ちょっとまだできていません，仕事はしていますが。住むべきところとしてこういうところがいいんだよと。真備町は今，土地が非常に安いですし，出て行っておられる人も多いので畑も田も使われてない所があると思いますし，田んぼも借りれる，耕作もできる，教えてくれる人もいるという。移住を考えておられる人たちに，ピンポイントでメッセージを強く送ればいいんじゃないかなと思います。

移住してくる人は，住むところ，仕事とか，遊び，何が魅力かとか何が楽しいとかたくさん探しておられるんですけど，その人にポイントを一つ絞って，例えば，一生通せる仕事がここにあるとか。全部を提供しようと思ったら大変なので，一つに絞って情報を提供したらいいと思います。(市長：ブドウの生産だったら，真備ならピオーネがすごいんですけど，ピオーネの生産がということですね。) はい。農業をやりたいという人にはそこをポイントで押さえて。それと、仕事とか遊びとか，まあ仕事とつながってくると思うんですけど，住む所とか遊びとかは自分で何とかするんじゃないかな。これは経験からなんですけど。３つ全部というのは大変だと思うので。今，真備町限定ですが，使っておられない，空いているということを，移住を考えている方に提案できるということをぶつけると，魅力がたくさんあるということを分かってもらえると思います。一つポイントを絞ってＰＲすると気持ちが変わっていくんじゃないかと思います。

≪市長≫

なるほど。分かりました。ありがとうございます。

≪参加者Ｍさん≫

水島環境のＭです。住まいが広江です。私も昭和４１年にこちらに移りました。生まれは山梨県甲府で，そこから千葉へ行きまして，こちらへ来たという経緯があります。もう５０年間こちらで生活しています。先ほどからこの会場におられる若い方々がいろいろな形で移住してこられた方もおられましたし，そういう方々の発信するものが倉敷にとって非常に大事なことじゃないかなと思います。皆さんに是非，こちらに来られた経緯とか感じたことをしっかりまとめていただいて，発信していただきたいなと思っています。

私が今日お話しするのは，高齢化の話です。実は私の家の近くの方が，２人，３人子どもがおったんですが，すべて県外に出て行きまして帰って来ないんですね。ということは高齢化して２人だけの生活になる。そういう方が私の周りで４軒ありまして，多分皆さんのおうちの周りでもそういう方がたくさんおられるんじゃないかと思います。たまたま私のところは子どもが隣に家を建てましたのでほとんど同居という感じなんですが。私が望む暮らしたいまちというのは三世代が一緒にとは言いませんが，近くでもいいから何らかの形で住んでいけるまち。これが私の理想的な，バランスのとれたまちかなあと。おじいちゃん，おばあちゃんもおるし，中間の人もおるし子ども，孫もおる。バランスのとれた階層が続けられるんじゃないかと思います。そのためにどうしたらいいんだろうかという話になるわけですけど。やっぱり高齢者については健康寿命をもっと長くしてもらう。それには足（交通）の問題なんです。今，私の地域でもコミュニティタクシーをやりましょうかと検討しておるんです。結構高いんです。もっと安く，ＮＰＯ法人を立ち上げて，民間でやるとか，知恵を出さないといかんなと思っています。そのためには市の方もそういう窓口をつくっていただいて，相談に乗っていただきたい。これを是非お願いします。

それから，地域は工業地帯なんで，仕事はあるんですね。ただ，子どもを持ちながら仕事をすることは非常に難しい。その辺の子育て支援をしっかりやれるまちづくり。（市長:保育園ですね。）はい。これをしっかりやっていただきたいなと思っています。

≪市長≫

ありがとうございました。三世代同居，それから保育園とかのことは，おっしゃる通りだと思います。今年の１０月から保育園，幼稚園の制度が変わります。入りたい方は増えておりまして，一生懸命つくっているんですが，まだまだ追いついてない状況で，保育園，待機児童ゼロを目指して，今年の４月はまだちょっとなかなか難しいと思うんですが，一生懸命頑張りますので。

それから三世代同居について，いろんな地区でしていただいているふれあいサロンなどでも，子どもさんとお孫さんも一緒に参加してもらったり，日頃からおじいちゃん，おばあちゃんの年代とも一緒にお孫さんが触れ合ってもらえるような仕組みも，小さい頃から小学校や幼稚園の取組でもしていきたいと思いますし，とにかく学校教育の中で地元への愛着を持ってもらえるというところで，教科書以外の副読本で「みんなのまち倉敷」ということで，地元の偉人の皆さんとか，古くいえば吉備真備さんとか大原孫三郎さんとか，玉島で言えば熊田恰（あたか）さんとか児島で言えば野﨑さんとか，そういう人たちのことも小さい時から勉強してもらって地元に愛着を持ってもらうような教育と，それからそれを実際に地元の人たちからも聞くという，教えてもらう教育というのもすごく重要だと思って力を入れていきたいと思います。

≪参加者Ｎさん≫

くらしき作陽大学の４年生，Ｎです。今大学の勉強で，さまざまな市の子育て支援について調べているんですが，市長さんが「子育てするなら倉敷で」と言われていたのを聞いたんですが，何が「倉敷で」なのか分かりづらくて，もっと分かりやすくＰＲすれば移住定住にもつながるのではないかと思うし，またお隣の県の加古川市では加古川市ならではの子育て支援をされていて，「見守りカメラ」というのを設置していて，お子さんや認知症の方がどこにいるか分かったり，見れるカメラがありまして，その中にタグが入ってまして，その方が通ったりすると，居場所が分かるようなＧＰＳ機能も入ってまして，それが国土交通大臣賞を受賞されていて，そのことも加古川市はＰＲされていて，すごく子育て支援について分かりやすいと思いまして，子育て家庭の方が，移住定住するにあたって選択肢になったりとかするので，「子育てするなら倉敷で」というのも言われているので，分かりやすいＰＲをした方がいいのではないかなと思います。

≪市長≫

今のカメラのような最先端というのとはちょっと違うんですが，例えば小学校区で朝，学校の周りや角々で，保護者の皆さんとか，地域のおじいちゃんおばあちゃんも立ってくださって，子どもの見守りをしてくれています。都会の方ではなかなかないと思いますが，倉敷市内の小学校区ではほとんどの所で地域の皆さんがそういう見守り活動をしてくださっているとか，市内の多くの箇所に子ども１１０番に協力してくれているところがあるとか，今ふと思ったんですけど，そういうこともっと発信をした方がいいと思いました。最先端のもののようにすぐ食いつくかどうか分かりませんが，より具体的な子育て支援の取組を発信したいと思いますし，作陽大学さんでは子ども教育学部さんを始めとして市民の生活に密着した取組をしていただいています。それから，水島の地区の皆さんは芸科大の皆さんと日頃からいろんな取り組みを一緒にしてくださっているので，そういう日頃から地域の皆さんと地域の高校生や大学生とかが一緒になって取組をするということが今後のまちづくりにすごく大事なことだと思って，そういったところも発信していきたいと思いました。ありがとうございました。

今日は「ずっと暮らしたい倉敷のまちづくり」といたしまして，いろいろな地域の取組から防災のことから，また移住を今検討している，移住してきてこういうところが良かったとか，もっと発信したいとかいうことでいろいろお話をいただきました。今後の倉敷市，そしてこの備中地域や高梁川流域，もちろん岡山県全体ですけれど，より魅力があるところを皆さんに良く分かっていただいて，それも全般的なことだけじゃなく，ピンポイントで詳しく分かりやすく発信をしていくということも非常に大事なことだと思いますし，また，地域の皆さんが一緒に取り組んでくださっていることを具体的に発信することが大変大切だと思いました。皆さん本当にありがとうございました。

≪終≫